

竹里館

王

維

独ひとり坐ぎす幽ゆう篁こうの裏うち 彈だん琴きん 復また長ちやう嘯しやう

深しん林りん 人ひと知しららず 明めい月げつ来きたつて 相あい照てららず

【作者】王 維(七〇一〜七六一年)盛唐の詩人。字は摩詰(まきつ)。山西省太原(たいげん)の人。七三二年の進士。弟縉(しん)と共に幼少より俊才、官は尚書右丞(しょうしよゆうじよう)に至る。五十五歳の時安祿山(あんろくざん)の乱に遭遇し、賊にとらえられ偽官の罪を得たがのち赦される。晩年もう川(もうせん)に隠棲し、兄弟共に仏門に帰依(きえ)する。また画の名手にして南宗画(なんしやう)が 文人画(ぶんが)の祖となる。

【語釈】*竹里館…王維の別荘。もう川荘(もうせんしやう)の中の名所の一つ。 *幽篁…奥深く静かな竹やぶ

*長嘯…口をすぼめ声を長く引いて詩をうたう、一種の音楽。 *相照らす…心の相通ずる意。

【通釈】私はただ独り、奥深く静かな竹藪の中の館に坐(すわ)り、琴を弾いたり、詩歌を長吟したりして過(すご)している。奥深い林のことだから誰も知らないであろう。ただ明月だけがこの林の奥まで光をさしこんで私を照らしてくれる。

【参考】もう川荘……陝西省藍田(らんてん)県西南二十里の藍田山の麓にある初唐の宮廷詩人宋之間(そうしもん)の別荘であった。のち王維が購入して生活の安息と経済的目的をはかった。二十里に及んで景観を呈し応に桃源郷そのものであった。

「孟城坳(もうじやうよう)・華子岡(かしこう)・文杏館(ぶんきやうかん)・斤竹嶺(きんちやくれい)・鹿柴(ろくさい)・木蘭柴(もくらんさい)・茱萸沂(しゆしへん)・宮槐陌(きゆうかいはく)・臨湖亭(りんこてい)・南だ(なんだ)・欽湖(いこ)・柳浪(りゅうろう)・樂家瀨(らんからい)・金屑泉(きんしやうせん)・白石灘(はくせきたん)・北だ(ほくだ)・辛夷塢(しんいう)・漆園(しつえん)・椒園(しやうえん)・竹里館の計二十の名勝があった。